

シーズン開幕特別インタビュー

100周年に向けて スタンダードの目線を 上げていきたい。

公益社団法人 日本アメリカンフットボール協会 会長

国吉 誠

フェアプレーの精神を 今一度見直した1年間

—— 7月に事務所を品川からジャパン・スポーツ・オリンピック・スクエアに移転されました。

国吉 オリンピック競技をはじめ、日本の主要スポーツ団体の本部と同じ場所に日本協会事務所を構えることは、日本スポーツ協会、日本オリンピック委員会共に準加盟の我々にとって、とても意味のあることです。他競技団体との交流がしやすい環境を存分に生かし、日本のスポーツのスタンダードを学び、我々のスタンダードの向上を目指して目線を上げていきかけになると考えています。

——国吉会長は6月の社員総会で2期目の再選が決まりました。あらためて、1期目に取り組んだことを教えてください。

国吉 特に昨年はフェアプレーの徹底に注力して取り組みました。スポーツにおけるガバナンスやコンプライアンスが様々な形で社会問題となる中、アメリカンフットボールは、本来学生の教育のための競技であり、人間形成こそが真の目的であることを再確認しました。その基盤となるのが『フェアプレーの精神』です。『フェアプレーとは何か?』を掘り下げて、共通認識を持つために、各所属団体と連携してシンポジウムの開催や、小冊子を作成して共有する取り組みを行いました。

また、他競技団体との連携についても一歩踏み出せたと思っています。特にフラッグフットボール出身者がアメリカンフットボール選手として多く活躍している現状を踏まえ、JFFO（財団法人日本フラッグフットボール協会）との交流を積極的に進めています。

昨年は重篤な負傷事故がなかったことも喜ばしいトピックの

一つでした。さらに、弊協会の理事であり、東京大学フットボールOBの川原貴ドクターが、昨年スポーツ医学会の最高権威である秩父宮記念スポーツ医・科学賞功労賞を受賞されたことは、競技として大変誇らしいことでした。また、最高のドクターが我々の一員としていてくださることは、競技の安全対策を継続的に行っていく上でとても心強いことです。

100周年に向け NFL選手の輩出を実現したい

—— 2期目のビジョンをお聞かせください。

国吉 今季は日本フットボール界の85周年シーズンですが、15年後に迫った100周年に日本のアメリカンフットボール界がどんな姿になっているのか、日本のスポーツ界でどんな立ち位置になるのかを具体的にイメージしながら、進むべき方向性を見出し、その基盤を固めて次の世代に受け渡す準備をすることが、私の仕事だと思っています。

15年というはまだ時間があるように見えますが、クリアしなければならない課題の量を考えると、とても短いと感じています。

一方で、15年という時間は、現時点では予測しえないムーブメントが起こるには十分な時間です。つまりところフットボールと一緒に、今、やるべき目の前のことを一つひとつ積み上げていくしかありません。結果が思い描いていた形とは違うものになったとしても、しっかりと積み重ねていけば、何らかのプラスが必ず残るはずですよ。

—— 日本のフットボールのスタンダードを上げるために必要なことは何だとお考えですか？

国吉 やはり、国際的に通用する競技レベルの向上と、選手の輩出だと考えています。

今、日本のスポーツ界から世界のトップクラスとわたり合うレベルのアスリートが次々と輩出されています。アメリカンフットボール界からそうした存在を輩出するためには、日本国内の競技レベルの向上、国際大会での活躍がマイルストーンになるでしょう。

—— 昨年は第6回IFAF世界選手権が中止になり、FISU大学世界選手権が来年で終了し、アンダー19世界選手権もアンダー20に変更になるなど、国際大会の枠組みも変わってきています。

国吉 これまでは国際大会といえばIFAF世界選手権でしたが、今の状況を冷静に捉え、我々の目的を達成するためには何が必要なのかを見極めなければならない状況です。日本のフットボールが向上するために指標にするのは、米国であり、カナダ、メキシコといった北米大陸のフットボールです。

その点でいえば、一昨年は米国選抜に勝利し、昨年は接戦を演じたインターナショナルボウル(=U18日本選抜)への参加は、強化プログラムとして年々進化している手応えを感じています。また、日本代表レベルの国際経験という点においては、現在、米国プロフットボールのショーケースとして開催されているTSL(ザ・スプリング・リーグ)と、日本代表チームとの対戦ができな

いか、調整に入っているところです。

来年は東京五輪の年ですが、5年後のパリ五輪、9年後のロサンゼルス五輪で、アメリカンフットボールが五輪競技になる可能性を注視しながら、五輪競技になるか否かを問わず、あらゆる面でオリンピック競技と伍するスタンダードを身につけていくことが必要だと感じています。

—— あと15年という時間は短いとお話がありましたが、劇的に変化する起爆剤となり得るものは？

国吉 NFL選手の輩出でしょう。世界のトップリーグでプレーする選手の存在は、競技に取り組む人々を劇的に増やし、スタンダードを向上させる大きなパワーを持っていることは、他競技の例を見ても明らかです。

NFLに日本人選手が入ることがとてつもなく高いハードルであることは、過去、あと一歩まで迫った選手のレベルを見ても容易に想像ができます。しかし、決して不可能ではないと考えています。そうした選手が誕生する土壌作りが我々のミッションだと考えています。

選手たちには、近い将来、自分が先駆者になるんだという大きな夢と気概を持って、2019年シーズンを精一杯戦ってもらいたいと思っています。

